

# 北海道浮魚ニュース

令和 6(2024) 年度 7 号

2024 年 7 月 2 日

道総研 鈎路水産試験場

ホームページ

[http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo\\_news.html](http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html)

## ◎6 月浮魚類分布調査

6 月の魚探反応量は近年並み  
マイワシは 16cm 台が主体  
サバ類は 24cm 台が主体

ロシア主張 200 海里内でのさけ・ます流し網漁業の代替として始まったサバ・イワシ棒受網漁業等へ漁場情報を提供するため、調査を実施したので結果をお知らせします。

- ・調査期間：2024 年 6 月 12～19 日
- ・調査方法：計量魚群探知機および全周ソナーによる魚探反応量の計測  
CTD、XCTD による海洋観測  
NEAR-GOOS<sup>\*</sup>表面水温（6 月中旬および 5 月中旬）の解析  
表層トロールによる漁獲試験  
※NEAR-GOOS 地域リアルタイムデータベース  
[http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rrtadb/data\\_usage\\_J.html](http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rrtadb/data_usage_J.html)
- ・調査海域：道東太平洋海域

### 1. 水温分布（図 1、図 2）

5 月調査時と比べて全体的に昇温していました。調査範囲の大部分は沿岸親潮と黒潮系北上暖水の影響を受けており、表面水温は 2023 年調査時と同じくらいでした。一方、黒潮続流から切り離された暖水渦の影響で、北緯 42 度以南の海域では昨年よりも高い水温となっています。今回の調査でも、南東部の航走中に船底水温が一時 19°C 台に達しました。

### 2. 計量魚探調査（図 1、図 2）

2024 年 5 月に行った計量魚探調査では、道東沖に浮魚類と思われる反応がみられませんでしたが、6 月調査では広範囲にわたって浮魚類の反応が見られました。2024 年 6 月調査における平均反応量は  $1,794.1 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$  で、過去 2 年の 6 月調査（2023 年： $1,760.4 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ 、2022 年： $1478.2 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ ）とほぼ同程度となりました。

## 2024年6月調査

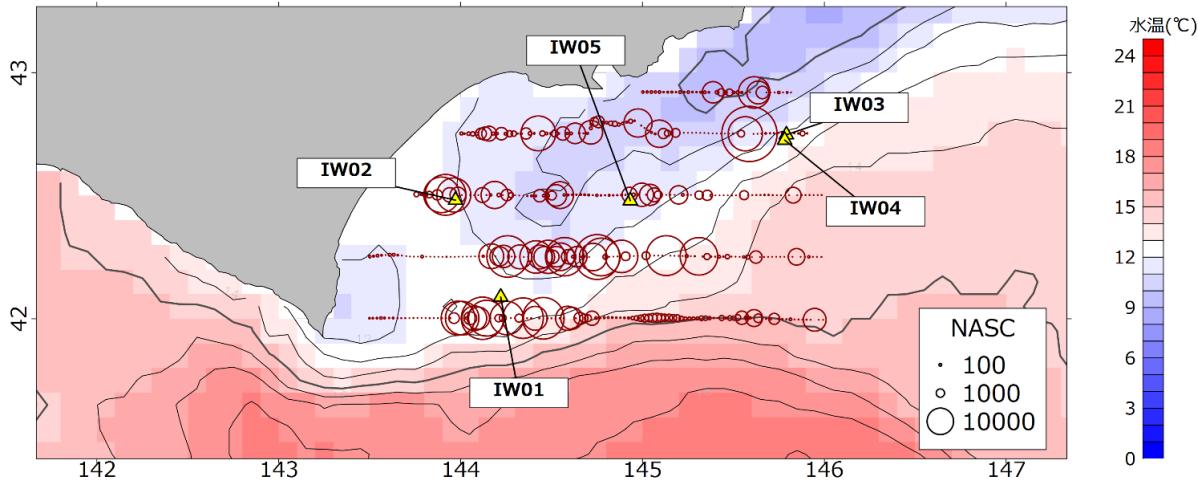


図1 2024年の6月調査における計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温および漁獲調査点  
(表面水温：NEAR-GOOS 表面水温旬平均値、NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量、黄色の三角形：漁獲調査点)

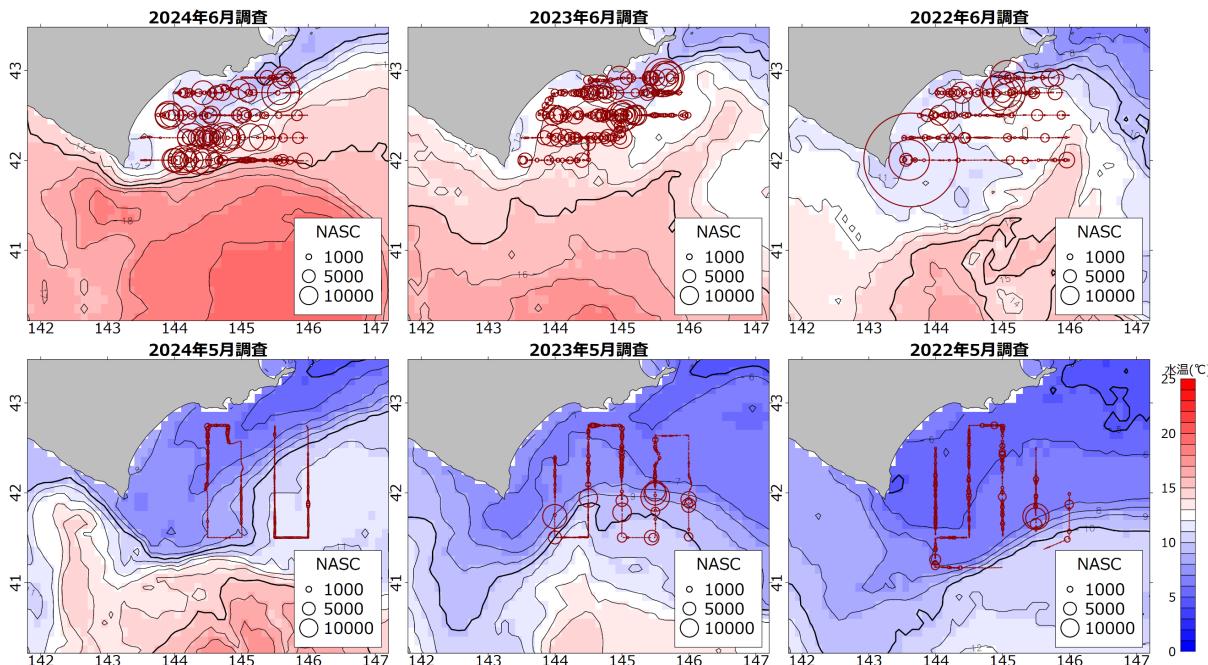


図2 2024～2022年の6月調査および5月調査における計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温  
(表面水温：NEAR-GOOS 表面水温旬平均値、NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量)

### 3. 表層トロール調査での漁獲尾数（表1、図3～5）

調査期間中、5点の表層トロール調査を行いました。採集数は、マイワシが11,370尾、サバ類が181尾でした（表1、図3）。マイワシの漁獲尾数が1,000尾を超えたIW02およびIW05は、水深20mにおける水温が低く、沿岸親潮の影響が強かったと考えられます。

マイワシの漁獲地点別の体長組成をみると、いずれの調査点でも15.5cm～16.5cmが主体でした。サバ類はIW04でのみ漁獲されましたが、体長モードは24cm台にみられました。

2024年および2023年の6月調査における、マイワシ並びにサバ類の体長組成を図5に示しました。両種ともに大型個体の割合がやや大きくなりましたが、体長組成に大きな変化はありませんでした。

表 1 2024 年の浮魚類漁場探索調査におけるトロール調査結果

調査点番号	調査日	位置		水温			漁獲尾数(尾/時間)			
		北緯	東経	表面	20m	50m	マイワシ	サバ類*	カタクチイワシ	サンマ
IW01	6/17	42-05	144-13	12.1	10.3	4.0	18	0	0	0
IW02	6/17	42-29	143-58	11.4	7.4	3.1	7297	0	0	0
IW03	6/17	42-45	145-47	12.9	11.8	9.4	93	0	0	0
IW04	6/18	42-44	145-47	12.9	11.8	9.4	484	181	0	0
IW05	6/18	42-29	144-56	12.3	5.3	6.8	3478	0	0	0
合計							11,370	181	0	0

\*サバ類にはマサバとゴマサバが含まれます

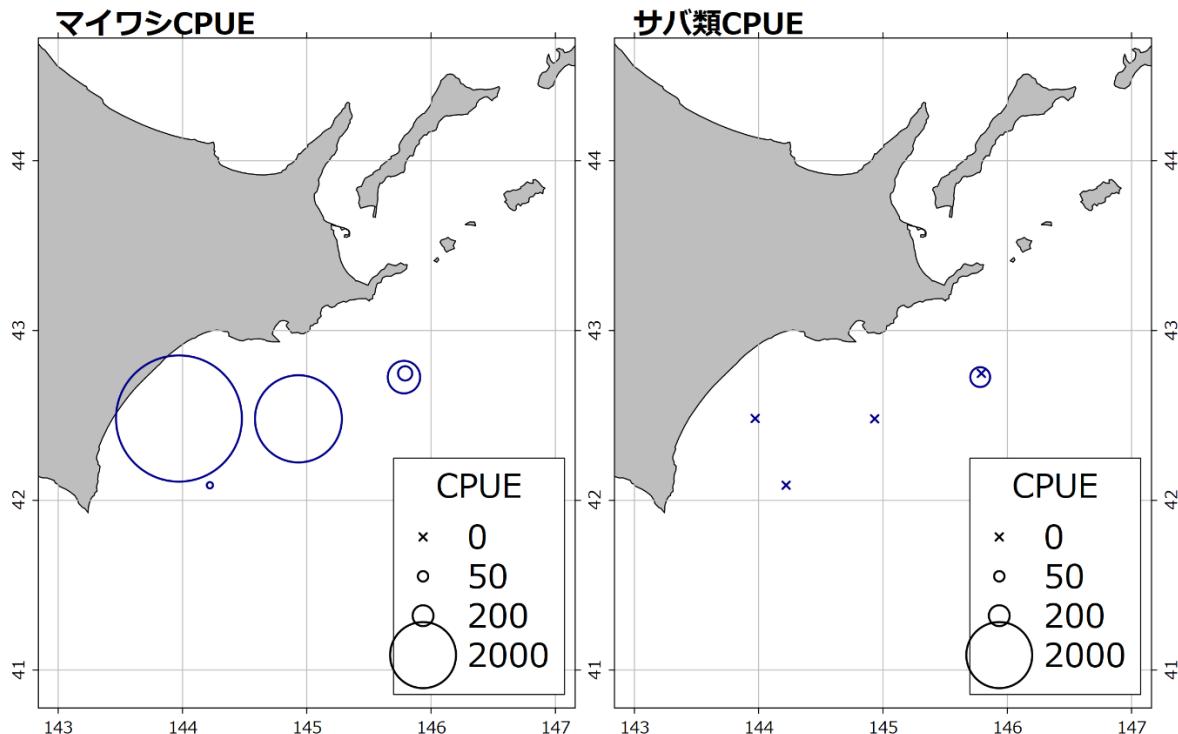


図 3 マイワシおよびサバ類の CPUE  
(CPUE : 1 時間曳網当たりの採集数)

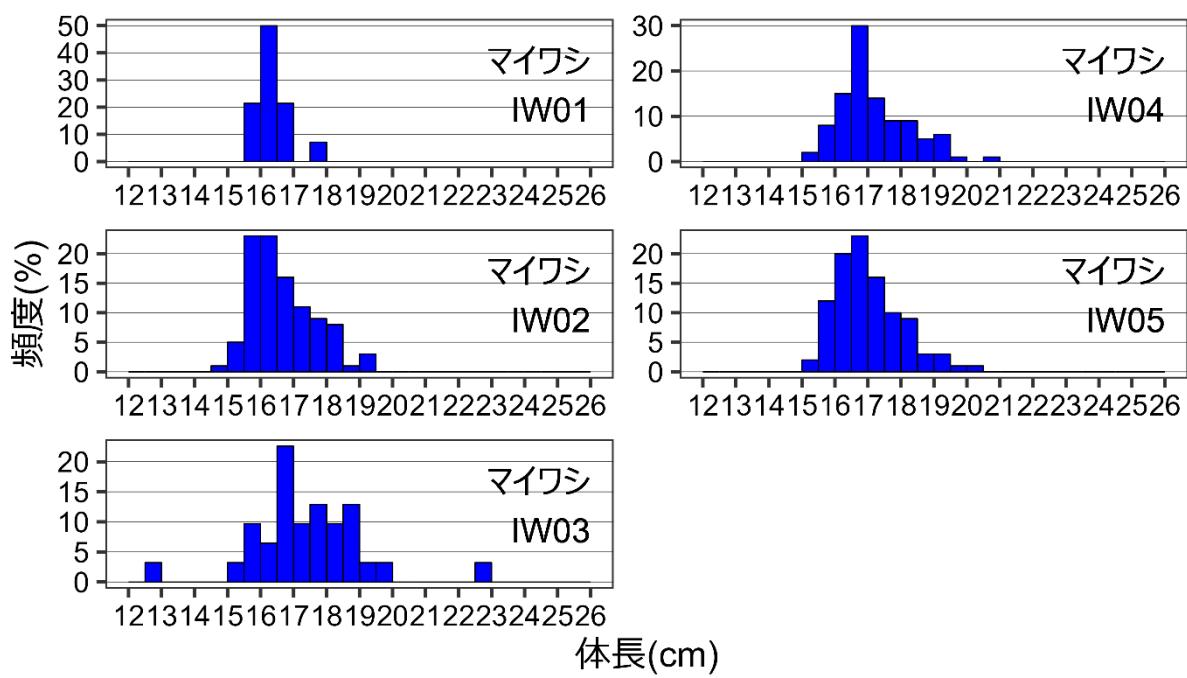


図4 表層トロール調査で採集されたマイワシの体長組成

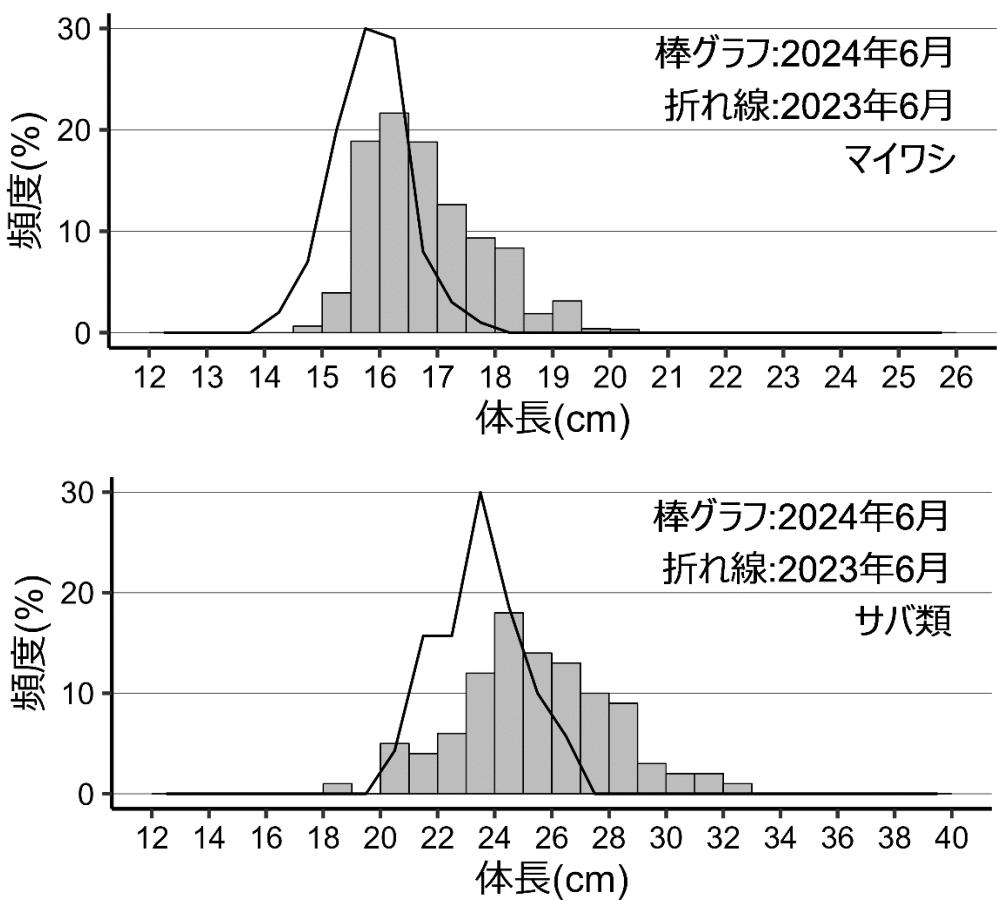


図5 2023年および2024年の6月調査で採集されたマイワシおよびサバ類の体長組成  
※2023年の体長組成は精密測定結果を使用。昨年度浮魚ニュースの速報値とは異なる。

### 3. 全周ソナーによる魚群の測定結果（図 6）

全周ソナーは、船底から水平方向に音波を出すことで、船の周囲にある魚群の形状や大きさを記録する音響調査機器です。調査船北辰丸に搭載されている全周ソナー（SX90、Simrad 社製）を用いて音響データを収録し、魚群の体積を音響データ解析ソフト Echoview（Echoview 社）で算出しました。

259 個の魚群が検出され、最も体積が大きかった魚群は北緯 42 度 45 分、東経 145 度 48 分付近の帶状の反応でした。

十勝～釧路の沿岸寄りの海域では、計量魚群探知機である程度の反応量が確認された一方で、ソナーでは魚群が検出されないことがありました（図 1、図 6）。今後は、魚群の検出設定をより最適なものにするなど、浮魚の分布に関する情報の精度の向上に努めてまいります。

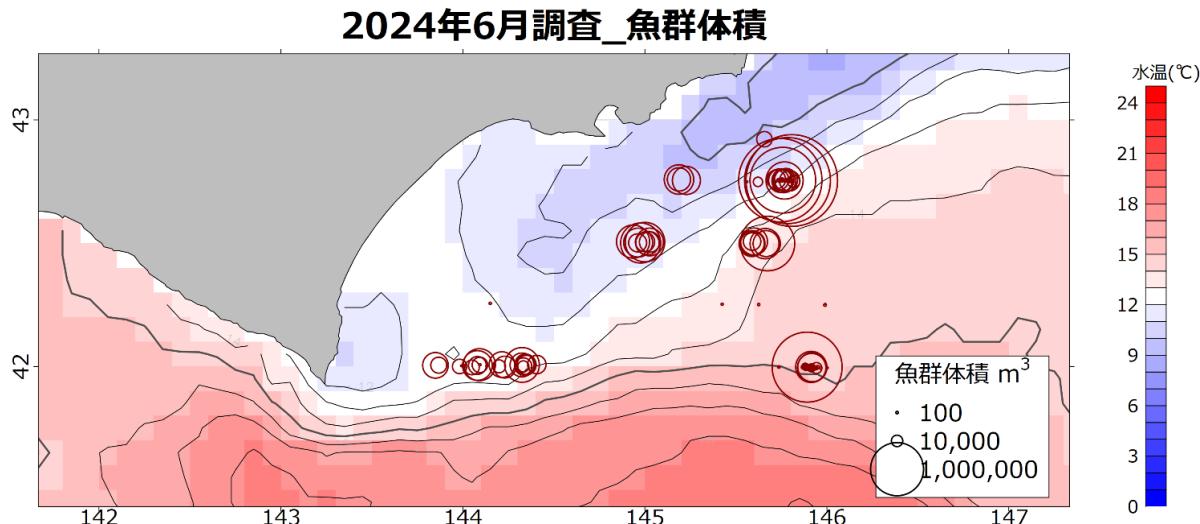


図 6 2024 年の 6 月調査における全周ソナーで観測された魚群の体積と表面水温  
(表面水温 : NEAR-GOOS 表面水温旬平均値、魚群体積 : 1 魚群あたりの体積)

SX90 および Echoview の設定

周波数 : 26kHz, FM 波

範囲 : 船の周囲半径 20m～800m (水深換算 6m～75m)

※海底の反応は手動で除去

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

北辰丸 海洋観測速報（試験運用中） <https://hro-fish.net/hokushin/>  
(釧路水産試験場試験調査船北辰丸の海洋観測結果がご覧になれます。)

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部、TEL:0154-23-6222  
FAX:0154-23-6225